

船の中の大事件 欄外情報

- ①「世界青年の船事業」には、東回り（環太平洋を回る）コースと西回り（インド洋を経てアフリカに行く）コースがあり、交互に実施されている。コース、年によって参加する青年の国籍は違う。しかし、帰船時刻に遅れたメンバーにどのようなペナルティを課すか、毎年問題となる。今回のように自由時間カットを罰とした場合もあるが、罰金制にした場合もあった。いずれの場合にせよ、文化や通貨の価値の違いで、全員が合意できる解決策は未だに出ていない。
- ②なぜ、遅刻者がこれほど問題となるかという点、数名あるいはたった一人の遅刻者のために、船が出航できないと、1時間につき莫大な船の停泊料が発生するからである。
- ③長い航海中に陸に降りるといことは、精神衛生上ひじょうに重要なことであり、他の寄港地では、自由時間カットでも船外活動として陸に降りる機会があるが、タヒチの場合は自由時間のみのプログラムであったので、自由時間カットになると陸に降りる機会が失われる。これが、タヒチの1日自由時間カットが問題となったもう一つの理由である。
- ④今回のシナリオでは触れなかったが、議論の争点の一つにリーダーのあり方を問う意見も出た。リー

ダーは各国・各グループをまとめていかなければならない。その中でリーダーとして規則に対して各人の事情を考慮すべきかどうか。また、交通事故というアクシデントがあったにもかかわらず、タヒチでの自由時間カットというリーダー会議の決定に対し、一部の参加者からグループの構成員の意思よりも、規則遵守するリーダーは果たしてリーダーとして適格なのかという意見も出た。

- ⑤今回の船でのペナルティは、船が出航する前に各グループのリーダーによるリーダー会議で決定されたものである。船において、リーダー会議は議決機関として公式なものである。
- ⑥今回の遅刻者問題は、一般参加者だけではなくリーダーの間でも意見が分かれ決定までに多くの議論がなされた。最終的には、リーダー会議で決定された。

紙芝居・ペーパーサート等の教材の利用に関しては、下記の「船と翼の会ふくしま」事務局まで、お問い合わせください。



船と翼の会ふくしま

内閣府（総理府・総務庁）の青年国際交流事業（航空機による海外派遣事業・世界青年の船・東南アジア青年の船など）の参加者を中心とした社会貢献を目指す事後活動組織。主に内閣府の青年国際交流事業で来日する外国青年の受け入れ、地元青年との交流会など、地域社会における国際交流の活性化、次世代を担う青少年の育成のための事業を行っている。

◆連絡先 TEL：024-549-5662（事務局 日下部）
E-Mail：funetotubasa@hotmail.co.jp



ホームステイおもしろ体験！～模擬体験から見える異文化～（多様性と共通性）

学習プログラム案作成までのプロセス

きっかけは

教師のねがい

小学校では国際理解教育は、英語活動の比重が大変高くなっている。教材として扱う事象も、英語そのもの（会話・歌・ゲーム）や、英語圏の文化紹介にとどまってしまうことが多い。また一方で、主に中国やフィリピン、韓国出身の住民も地域におり、級友の中に外国出身者が在籍することも少なくない。また、児童は、身近な地域での国際交流活動が盛んに行われていることを知らず、市民レベルでの国際交流に接する機会が大変少ない。

そこで、民間レベルでの多様な国際交流活動について知らせ、多様な国、多様な人、多様な文化について気づかせるような授業を構成し、多面的なものの見方を育てていきたいと考えた。

私たち船と翼の会ふくしまは、「地域における国際化」を目指し、さまざまな活動をしている。その中で、ホームステイのコーディネートをする機会もある。最初の対面式では緊張していた外国青年やホストファミリーが、ホームステイ後には感動の涙での別れになり、ホームステイは日本にしながらにしてできる国際交流のひとつであることを実感させられてきた。

しかし、ホームステイは特別な人のものであるというイメージがあり、なかなか受け入れに踏み切れないものようだ。異文化体験のおどろきや面白さを知ってもらい、ホームステイをより身近に感じてもらいたい。

NGOのおもしろ



こんなふうにつくりました

1 チームミーティング(9月8日)「素材・ねらい・手法の決定」

- 素材：素材はホームステイ、ねらい：価値観の多様性
- 手法：ロールプレイ、時間数：4時間

2 第1回全体共有会(9月24日)「食事をテーマにロールプレイ台本を発表」

- 課題
 - ・食事をテーマにすると宗教の制約と嗜好の違いが複雑で、説明不足により誤解が生じ、異文化に対するマイナスのイメージを植えつけてしまう心配がある。
 - ・違いのみを強調せず共通点も見つけたい。

3 チームミーティング(10月8日)「ロールプレイ台本の検討」

- より簡単に子どもたちに理解してもらえるようなエピソードの選定が難航した。言葉選びも難しく、台本決まらず。

4 チームミーティング(10月28日)「ロールプレイ台本の検討」

- テーマを入浴に決定。ロールプレイ台本ほぼ完成。
- 2人の日本人と3人の外国人という設定にする。
- モデルとなった外国人は、ステレオタイプに国を理解させないように、国籍は明らかにしない。

5 第2回全体共有会(11月4日)「ロールプレイ台本(お風呂編)発表」

6 授業実践(11月16日) 対象：福島市立松川小学校6年生

7 チームミーティング(11月23日)「授業実践振り返り」

- 成果
 - ・イラストの役割カードにより、役になりきってロールプレイすることができた。
 - ・ロールプレイをとおして、入浴文化も多様であることに気づいた。

- 課題
 - ・ちょっと内容が欲張りすぎていた。
 - ・「多様性」で、流れを作ってみてはどうか。
 - ・ふり返りの時間を十分にとりたい。

8 チームミーティング(11月27日)「実践内容の再検討」

- 成果
 - ・^{※1}KJ法による分類は、違っている点同じ点ではなく、トピックごとの分類にして、それぞれのトピックごとに、どうして違うのか、その背景を考察し「文化はその社会の持つ環境や背景によって成立する」ことをおさえることで落ち着いた。

9 チームミーティング(12月13日)「ねらいの再検討」

- 授業のねらいを「人間や文化の多様性を身近にとらえる」こと一本に絞る。
- 成果
 - ・無理のない自然な活動の流れや、話し合いのまとめの際のねらいどころがすっきりした。

・「ねらい」がずれないようにするためにワールドスタディーズの切り口を指針にする。「ワールドスタディーズ」サイモン 学び方・教え方ハンドブック・フィッシャー&デイヴィッド・ヒック 著、国際理解教育・資料情報センター (ERIC) 編訳、本冊子P38参照

・宗教を取り入れることの難しさを痛感

・人は、自分が見たり聞いたり体験したりしたことの中でしか、考えることができないと改めて思う。ならば、子どもたちにも見たり聞いたり体験したりする機会をたくさん与えることが、教師の役割? 国際理解教育の種はどこにでもまくことができる。

・ねらいや内容の絞り込みは大切。ねらいの設定を明確にし、常に意識していないと、どんどんねらいからずれていってしまふことに気づいた。

・外部講師として授業に参加しての気づき〜NGOの紹介といわれると、どうしても思いがあふれ、欲張り、視点がずれてしまう。ねらいを絞るためには教師との綿密な打ち合わせが必要だと実感した。

※1 KJ法とは
出された意見を同じものどうしでまとめていく活動

・「国際交流」は何のためにするのかという問いを投げかけられ、改めて、深く考えるきっかけとなった。
・自分自身で今後国際理解教育に関わる上で重視したいポイントは、「想像力」と「行動力」の育成だと考えることができた。

10

ふくしまグローバルセミナー2007での実践(12月15日)
対象:高校生以上

11

チームミーティング(12月20日)
「ふくしまグローバルセミナー2007での実践のふり返り」

成果

- ・ロールプレイをとおして多様性に気づき、「ちがう」を考えるきっかけ作りができた。

12

第3回全体共有会(1月5日)「単元の流れの再検討」

成果

- ・実践を経て単元の流れを再検討した結果、ステップ3に位置づけられていた本案を導入とし、指導者がその後の流れを自由に作れるように変更した。

課題

- ・ねらいは多様性だが、どうしたら一回の実践の中で「ちがう」と「共通性」を入れられるか。

13

チームミーティング(1月12日)「単元の流れの再再検討」

成果

- ・再再度流れを検討した結果、2時間のプログラムにし、多様性と共通性の両方に気づけるように変更した。
- ・身近なところで国際交流が行われていることがわかり、世界との関わりを考えさせたいという教師の当初の願いに学習プログラム案の流れが落ち着いた。

ふくしまグローバルセミナー
2007
参加者の声

・実際にホームステイしたかのような体験を少しでも味わうことができ、改めて日本と外国との文化・習慣の違いに直面した。そう考えると日本の文化っておもしろい!

・まさしく面白体験だった。ホストファミリーをしたことがある友人から聞いていた話とはまた違う、見る視点によっては違う体験をし、今後の参考になった。

・外国人に対するステレオタイプすら持たない小学生を対象に実践するのは、大人を対象に実践するのではまとめ方に違いがあると感じた。

・たくさんの想いを出し合い、それをギギ落とし、紆余曲折ながらもメンバーが納得のいく学習プログラム案ができたと思う。

全体をふり返って

成果

- 小学生対象の実践と高校生から一般向けの実践を通して、参加者の実態に合わせて広い視野で学習プログラム案づくりを進めていくことができたことは良かった。また、作成の初期段階でNGOと教師の情報交換やねらいの確認を丁寧に行うことができたため、その後の流れが円滑になったように思われる。
- NGO「船と翼の会ふくしま」の活動をきっかけとして、参加者が楽しく国際理解を図っていけるような魅力あるアクティビティ案が形になったことは大きな成果である。また、作成に携わる中でお互いの価値観をぶつけ合うような濃密な学びの場が生まれ、そこから国際理解教育や国際交流を改めて深く考えていく機会を得られたことが財産である。

課題



- NGOとしての独自のアクティビティ案は大きな財産となる。しかし、学校教育の場にいかに応用していくか、教員向けの研修を含め具体的に実践する場としての学校への働きかけが今後の課題となると考える。



松川小学校での授業実践

学習プログラム案完成!

ホームステイおもしろ体験!
～模擬体験から見える異文化～

 対象 小学校高学年～高校生
 時間数 2時間(90分)

ねらい

- ・ホームステイを受け入れる模擬体験活動を通して、互いに感想や意見を交流したり、自分の文化と比較したりしながら、人や文化の多様性と共通性に気づくことができる。

進め方



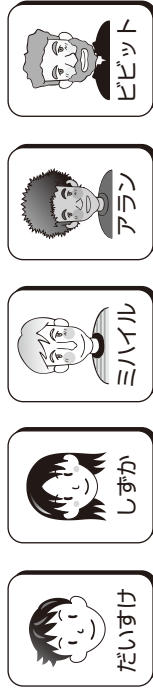
準備物 名札カード、役割シート（お風呂編）(P.15に掲載)、付箋、マジック、ポスター裏紙、カラーシール（青・赤2色）

| 内容 | 時間(分) | 進行上のポイント |
|---|-------|---|
| 1 学習の概要をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">ホームステイの受け入れを体験してみよう。</div> | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ○ホームステイ、ホストファミリー、ゲストについて説明し、ホームステイのイメージを持たせ、体験活動への意欲付けを図る。(特別でなく、日本でできる国際交流) |
| 2 アイスブレイキングを行う。 ・四つのコーナー ^{※1} ① 外国の人とふれあってみたいか ② 英語は必要か ③ ホームステイを引き受けたいか | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ○参加者の緊張をほぐし、参加者同士での異文化にも目を向けさせるよう、数名のコメントを全体共有する。 <p>※1 「四つのコーナー」とは 1つの質問に対して「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえはいいえ」「いいえ」の4つに分かれる。</p> |
| 3 ホームステイ模擬体験を通して考える。 (1) ホストファミリーと外国出身者の役割でホームステイ場面を演じる。 (2) 体験を通しての感想をグループ内で交流する。 (3) トピックを自分と比較して似ている点と異なる点に分類してみる。 | 35 | <ul style="list-style-type: none"> ○グループに名札と役割シートなど配付する。シートの読み取りの時間を取り、ホストファミリーと外国出身者のホームステイ場面をロールプレイにより模擬体験させる。役割を変えても良い。 ○付箋を用いて、面白いと思ったことや驚いたことなどを書き出させる。 ○KJ法でトピックごとにまとめ、グループ内で意見の共有をする。 ○各トピックに、自分と比べて似ている点に青、異なる点に赤のシールを各自貼る。 ○異なる点だけでなく、自分との似ている点にも気づかせる。 |
| 4 活動のふり返りと学習のまとめを行う。 (1) 活動の結果をグループごとに発表する。 (2) 人間や文化の多様性と共通性を考える。 ☆なぜちがうのだろう？ (気候、宗教、環境…) ☆身近な所でちがいはあるか？ (青赤シール混在の意味) ☆ちがうってどういうこと？ (国、地域、家庭、人…) ☆なぜ同じなんだろう？ (気候、習慣、思い…) ☆同じだとどう思うか？ (安心、仲間…) (3) ホームステイ受け入れ体験談を聞く。 | 40 | <ul style="list-style-type: none"> ○グループの意見を紹介させ、全体で共有する。文化の似ている点と異なる点のポイントを確認し、その背景を考えさせる。 ○異文化の解釈の意見を全体に求める。(異文化って外国の文化のこと?) ○文化は多様であるが、同じ人間として共通するものがあることに気づかせる。 <p>○身近な地域の国際交流活動を紹介し、ホームステイや国際交流に対する理解を深める。 ○数名の学習感想を全体で紹介することで、今後の学習への意欲付けを図る。</p> |

本活動のアレンジ案…一般の方を対象にする場合、終末で「カードの人物の出身国はどこか？それはなぜか？」の発問をし、参加者内の固定観念に気づかせる場を組み込むとより深まりがでると思われる。

ホームステイおもしろ体験!役割シート(お風呂編)

(もしも、外国からのともだちがあなたのおうちに来てきて日本のお風呂に入るとしたら…)



役割カード

だいすけ：よろこぞいらっしやい。福島は温泉もたくさんあるよ。

しずか：今日は家でお風呂をわかすので、夜になったらゆつくり入ってあたたまってね。

ビビット：わたしは朝シャワーを浴びるのでだいじょうぶです。夜は浴びません。ところで、お風呂って何ですか。

ミハイル：お風呂って湯がねがあって、お湯をためることもできて、シャワーもあるところだよ。

アラン：シャワーって水がもたないな。ほくはシャワーを浴びないよ。前に日本のシャワーであまりたくさん水が出るので、思わず手を当てて止めようとしてちやったよ。

だいすけ：それは、水を少しずつ出せばいいんですよ。でも、シャワーはどこでもあ
るんじゃないですか。せつかく日本に来たのだから、せび湯がねに入ってほし
いなあ。

しずか：そうよ。お風呂のお湯は体をあたたためるし、とつても気持ちいいんですよ。シャ
ワーだけだと寒い季節は湯ざめしちゃうでしょう。

ビビット：そうですね。じゃあ、お風呂のお湯は使ったらぬいてもいいですか。

だいすけ：それはだめですよ。次に入る人がこまってしまうからです。

ビビット：えっ、でも、人が入ったお湯にまた入るのは清潔じゃないよ。体も湯がねで洗
うんだし。

だいすけ：待ってください。お湯の中で体を洗ってはだめですよ。体や頭はお風呂の外の
洗い場で洗ってください。タオルもお湯には入れないでね。

アラン：ほく同じお湯にみんなは何回入ってもだいじょうぶ。ういている汚れはすくつ
てとれればいいですよ。それに、ほくの国では水は大切だから、何回も使って、
むだにはしないんです。

しずか：ああ、そう。でも、家ではちゃんと毎日お湯を交がんでいるからきれいですよ。

ビビット：うーん。でも、やっぱり、わたしはお湯をかえないのは不衛生な気がします。
せつかくですが、シャワーだけでいいです。

アラン：ほくはお風呂に毎日はいらないよ。日本の方はきれいすぎですね。でも温泉に
は行ってみたいな。

だいすけ：それじゃあ、明日はみんな温泉に行きましようか。

しずか：それはいいわ。温泉は広い湯がねで内風呂と外風呂があるのよ。

ミハイル：温泉は水着で入ると怒られるって聞いたんですが…何でなの？

だいすけ：そうだね。日本は裸で温泉に入ります。タオルは湯がねに入れません。マナー
がいろいろあるので守って欲しいですね。

ビビット：日本のマナーは守りたいです。でも、わたしの国では他人に肌を見せることは
いけないことなんです。特に女性はできません。

しずか：そうですね。だったら、温泉では足だけを入れる足湯も楽しめますよ。

だいすけ：日本にホームステイに来たのだから日本の温泉も体験してもらおうと思っただの
ですが…今日はシャワーを使って、体や頭は湯がねの外で洗ってくださいね。
夜でも朝でもいいですよ。家のお風呂は一人で入るので誰にも見られませんか
ら。

しずか：でも、お湯はすてないでね！みんな使おうし、次の日はお洗濯にも使えるんだ
から。

ミハイル：体をきれいにするだけじゃないんだね！

アラン：おおー、水がしつかりリユースされているんですね。

ビビット：日本のお風呂は地球にもやさしいんですね！